
ハリー・ポッターと黒の読姫

悠梨

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ハリー・ポッターと黒の読姫

【Nコード】

N7867Y

【作者名】

悠梨

【あらすじ】

郊外にある古びた別荘には、人が住んでいた。

その屋敷に住むダリアンとヒューイは、困っていた。というのも、普段は誰も来ないやしきに、あるものがやってきていたからだ。

そのあるものとは、フクロウである。そして、渡していった手紙には、「ホグワーツ魔法魔術学校」と記されていた。

プロローグ（前書き）

ダリアン可愛い〜、

ハリポタ混合面白い〜。

…という思いから始めてしまった小説です。
更新停滞するかもしれません。

プロローグ

その建物は王都から列車と車で半日ほどの都市の郊外にある、石造りの古い屋敷だった。零落した貴族の別荘だ。^{コテージ}それなりに敷地は広いものの、特別豪華なわけでもない。長く放置された庭園は荒れ果て、建物もずいぶん傷んでいる。一見すると廃墟のようだ。

その中の薄暗いリビングには二人の姿があった。

一人は革製のフロックコートを着た若い男で、年齢はせいぜい二十歳前後。育ちの良さがにじみ出た端正な顔立ちをしているが、どこか飄然とした雰囲気の青年だった。

もう一人は黒尽くめの奇妙な衣装を纏った小柄な娘だった。年はせいぜい十二、十三ほど。高価な次期人形を思わせるような美しい顔立ちの娘である。

しかし、彼女の身に纏う衣装は漆黒で、全身に豪華なレースやフリルがついており、そのあちこちを金属の装甲がおおっている。そして彼女の胸元には、銀の鎖で縛られた古い錠前が鈍色に輝いている。二人の前にあるテーブルには、あるものが置かれている。

つい今しがた、灰色のフクロウが飛んできて、落としていった手紙である。

その手紙はすでに封を切られており、何枚もの手紙が散らばっている。

「……なんなのですか、ヒューイ。この魔法魔術学校などと言ったいかにも使い古された小説のような言葉は？」

「残念ながら僕にもわからないよ。ダリアン、どうする？」

ヒューイと呼ばれた青年がダリアンに聞く。

「もちろん、いくに決まっています。この文字が読めないのですか？」

と手紙のはしを指差した。

そこには、「たくさんの蔵書があります」と書かれていた。

「この魔法界とやらの書物を読んでみたいのです。ヒューイ、さつさと準備するのです」

「ちよつと待った。ダリアン、どこにいくんだい？」

「何を言っているのですか。このホグワーツとやらに決まっているではありませんか。ああ、さつき読んだものまで忘れるようなボンクラになってしまったのですか、なんと哀れな」

「僕はぼんくらじゃないよ。でも今日はまだ九月一日じゃないよ。それに必要なものだって全く買ってないんだし」

ヒューイがそう言った瞬間、ドンドンドンドン、と分厚い櫪の扉がたたかれた。

プロローグ（後書き）

ダリアンの悪口が思いつかない…。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7867y/>

ハリー・ポッターと黒の読姫

2011年11月23日14時47分発行